

Title	表紙 目次
Sub Title	
Author	
Publisher	慶應義塾経済学会
Publication year	1964
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.57, No.11 (1964. 11)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	
Genre	
URL	https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19641101--001

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

慶應義塾経済学会

三田学会雑誌

1964年 11月号

論 説

- フランク社会における土地所有の動態について……宇尾野 久 1
- 法人利潤、付加価値および売上高の変動……浜田 文雅 23
- アジア低開発地域の経済成長と
域内貿易の展望 (1960~1970年)……大西 昭 51

書 評

- ゲルハルト・ベッカー著
『1848年から1849年にかけてのケルンにおける
カール・マルクスとフリードリッヒ・エンゲルス
——ケルン労働者協会の歴史によせて』……飯田 鼎 71
- M・ベナル
『ラブルールの動静
——十七世紀パリ南域の事例——』……渡辺 國廣 75

新刊紹介

57 卷 **11** 号

昭和三十九年十月十一日発行
昭和三十九年十月十一日発行
昭和三十九年十月十一日発行
昭和三十九年十月十一日発行

昭和三十九年十月十一日発行
昭和三十九年十月十一日発行
昭和三十九年十月十一日発行
昭和三十九年十月十一日発行

三田学会雑誌

昭和三十九年十月号

定価 金二〇円(送料別)

MITA GAKKAI ZASSHI

(Mita Journal of Economics)

Vol. 57, No. 10

October, 1964

CONTENTS

Articles

- The Concept of Social Work
——The memory of Prof. Eiji Kojima—— *Y. Aonuma* 1
- The First International and Nationalism *K. Iida* 19
- Fluctuations in Export and Domestic Prices
——In case of postwar Japan—— *Y. Kawashima* 43
- Note and Memoranda
The Growth of Firms and Market Structures *Y. Hara* 66
- Book Reviews
Guy Caire; Bertin, ministre physiocrate (Revue d'histoire
economique et sociale, Année 1960 Numéro 3)..... *K. Watanabe* 75
- Roy Harrod (ed. by); International Trade Theory
in a Developing World——Proceedings of a Conference
held by the International Economic Association—— *H. Fukami* 79

Published for

KEIO-GIJUKU KEIZAI GAKKAI

(The Keio Economic Society)

Editorial Communications to be sent to
the Editor, Keio-Gijuku Keizai Gakkai,

Keio University,

Mita, Minato-ku, Tokyo, Japan.

Price 120 yen

新刊紹介

- 岡倉古志郎 編著『新植民地主義』……………矢内原 勝 81
堀山 芳郎 訳
Z. K. フジェジンスキー著『ソビエト・ブロック』……………加藤 寛 81
山口 房 雄 訳
R. ハイムブローナー著『100万人の経済学』……………松浦 保 82
浜田 清 夫 訳
白井 厚著『ウィリアム・ゴドウィン研究』……………飯田 裕 康 84

フランク社会における土地所有の動態について

宇尾野 久

フランク社会における大土地所有の存在、とくに君主や聖俗両界の貴族によって所有された多くの広大なヴィラが存在したことは、否定できない事実である。メロヴィング時代にすでに教会は西ヨーロッパ全体にちらばった広大な土地財産を獲得することに成功し、聖職者は膨大な土地財産を所有した。⁽¹⁾

しかし実際は、多くのヴィラを所有する大土地所有者や単一のマンヌスを耕す小自由保有者と並んで、カール大帝の御料地令が指示しているような、若干のマンヌスを所有し、うまくそれらを経営している中位の土地所有のカテゴリーも存在し、問題は複雑な姿を示していた。⁽²⁾

このような事態は如何なる経済、社会、政治関係によってひきおこされたのであろうか。

たとえば軍政と関連した *precariae* (*verbo regis*); *Sakralisation*, *beneficium*, 世俗領地没収 (*Konfiskation*), *traditio*, *villa* 経営の合理化と普及等々がそのような変革をひきおこしたのか。若しそうだとすれば、その原型としての *allodia* や *mansus* の分布はどのような状態にあったのだろうか。

Werner Wittich 著 Philipp Heck の *„Grundherrliche Theorie“* 及び *„die bäuerliche Theorie“* の論争はどのような

フランク社会における土地所有の動態について